

乳児期に皮膚の手入れを

最近の食物アレルギーの考え方として、乳児期に皮膚の手入れをしっかりと行うことが重要と考えられています。

今までの食物アレルギーの原因は食べたり、母乳（中に含まれる食品成分）を飲んだりして腸で感作され成立すると言われてきました。そのためアレルギーの病気が疑われる子は離乳食の開始を遅らせたり、また母の食事制限を勧められていたこともありました。しかし最近の研究では食べたり母乳飲んだりすることは食物に対してのアレルギーに寛容（免疫をつける）働き、食物アレルギーの一部は肌から吸収され感作される（経皮感作）ことが原因になると考えられています。皮膚が荒れていると皮膚のバリア機能が充分でなく隙間から抗原が入り込み感作されアレルギーが成立します。従って肌荒れがある子は乳児期から積極的に肌の手入れをすることが食物アレルギーや他のアレルギーを防ぐのに有効と考えられています。肌あれがない子でもワセリンなどの保湿剤で手入れすることも良いことです。

小児科 森 浩行